

新聞スクラップ

平成 12 年 10 月 6 日鳥取県西部地震新聞スクラップ

(教育委員会関係)

○地震発生当日の状況

新日本海新聞 12.10.7

境港、日野震度6強

M7.3「阪神」上回る

大田午後1時半ごろ、鳥取県西部を襲った強い地震があり、境港市と日野町で震度6強、西伯町、瀬口町で震度6弱を記録するなど、鳥取県西部を中心とした中、巨震、巨震の巨震で激しい揺れを感じた。気象庁によると、マグニチュード(M)7.3と推定される。一九九五年一月の阪神大震災を超える規模の地震は約10年ぶり。鳥取県は同日午後1時30分、山形県知事兼本部長とする災害対策本部を設け、自衛隊の出動を要請した。鳥取県対策本部は同日午後十時現在で、家屋の半数以上が倒壊したり土砂に埋まるなど、県内で四十二人が重軽傷を負った。死者は出ていない。日野近くの住宅「J」が全半壊し、土砂崩れにより道路や線路が寸断され、米子空港が閉鎖するなど、鳥取県西部を中心に大きな被害が出た。気象庁は「平成12年鳥取県西部地震」と命名した。

鳥取県西部で大地震



強い地震で倒壊した民家＝6日午後5時20分、鳥取県境港市

老人ら避難所で肩寄せ

子供ら一斉に校庭へ

鳥取県倉吉市立東中学校では、テレビが落ちて3年生の男子生徒の頭に当たり4針縫うけをした。同校では、ほとんどの生徒が教室を校庭まで逃げていたが、30秒ほど経った後揺れに「さわあ」「キヤー」という悲鳴が上がった。八田洋太郎校長は「8月の防災式の際に避難訓練をしていたが、訓練では揺れはない。生徒らが驚き揺れに「さわあ」「キヤー」という悲鳴が上がった。八田洋太郎校長は「8月の防災式の際に避難訓練をしていたが、訓練では揺れはない。生徒らが驚き揺れに「さわあ」「キヤー」という悲鳴が上がった。」

鳥取県境に近い鳥取県倉吉市の市立東中学校(神田立校長)は、全校写真大

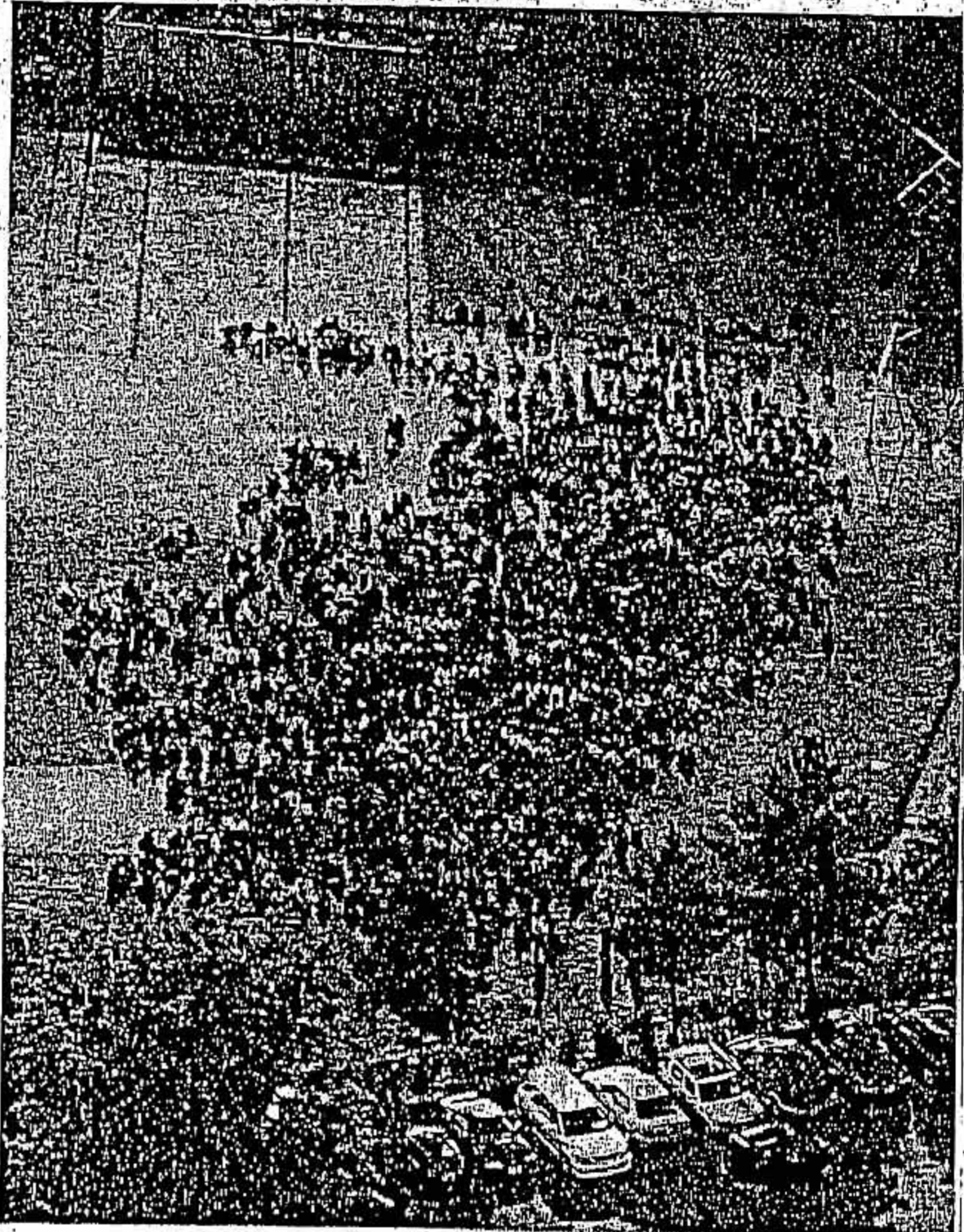
悲鳴、頭抱え震える児童

10/7
鳥取県倉吉市立東中学校
では、テレビが落ちて3年生の男子生徒の頭に当たり4針縫うけをした。同校では、ほとんどの生徒が教室を校庭まで逃げていたが、30秒ほど経った後揺れに「さわあ」「キヤー」という悲鳴が上がった。八田洋太郎校長は「8月の防災式の際に避難訓練をしていたが、訓練では揺れはない。生徒らが驚き揺れに「さわあ」「キヤー」という悲鳴が上がった。」

命の真ん中だった。2年生は教室で「フトリを描いていたが「揺れる」「怖い」と声が上がると、絵の具の水がこぼれて教室の床が水浸しになった。机を教室

の後ろに下げていたため身を隠す所がなく、子どもたちは手で頭を抱えて震えた。校庭に避難後、涙ぐむ男子児童もいた。

米子市津島町の成興小学校の児童の中には余震の恐怖に泣きだす子も。前田憲二教頭は「生まれて初めての激しい揺れだった。『大丈夫なぞ』とつぶやいては、怖かったが、それで逆に冷静になったと話していた。被災地では大半の学校が児童・生徒を集団下校させ、7日は臨時休校を検討している。



地震で校庭に避難した生徒たち＝鳥取県米子市の米子東高校で6日午後3時40分、本社ヘリから上入来尚写す

毎日新聞
12.10.7

学 校

西部地区を中心に児童生徒ら七人が負傷。学校の校舎の壁がひび割れるなどの被害が出た。一部の小中高校が七日の休校を決めた。

小学校では、米子市の住吉小と伯仙小の児童三人が、中学校では倉吉東中、境二中、日野中の生徒四人が軽傷を負った。西部地区を中心に、小中学校、養護学校の合わせて三十五校で、壁にひびが入るなどの被害があった。

午後六時半現在で米子市、境港市、西伯、会見、岸本、淀江、日南、日野、江府、溝口町のすべての

新日本海新聞

12.10.7

小中学校が、高校では米子東、米子西、米子、日野など十校が、それぞれ七日に休校することを決めた。

住吉小(米子市旗ヶ崎五丁目)では、机の下に避難した六年生の女子児童一人が、いすに顔をぶつける軽いけが。矢倉みゆき教頭は「これだけ大きな地震を経験したのは初めて。十日ほど前に避難訓練をしていたので、教室の生徒は机の下に避難し、そのあとすぐに全員が落ち着いて運動場まで避難した」。

伯仙小(同市尾高)では、掃除中に机の上のいすが児童の足の上に落下したり、机の角で背中を打って二人が軽いけがをした。

学校・施設被害広がる

10日の休校も

鳥取県西部地震で、ついに十日は休校する。鳥取県内の学校や社会体育施設の一部が損壊する被害が広がっている。西部地区を中心に公立、私立合わせて百八十九の施設で被害が確認されており、会見町宮前の会見小学校(原光太郎校長、児童二百十人)では校舎が危険な状態になった。

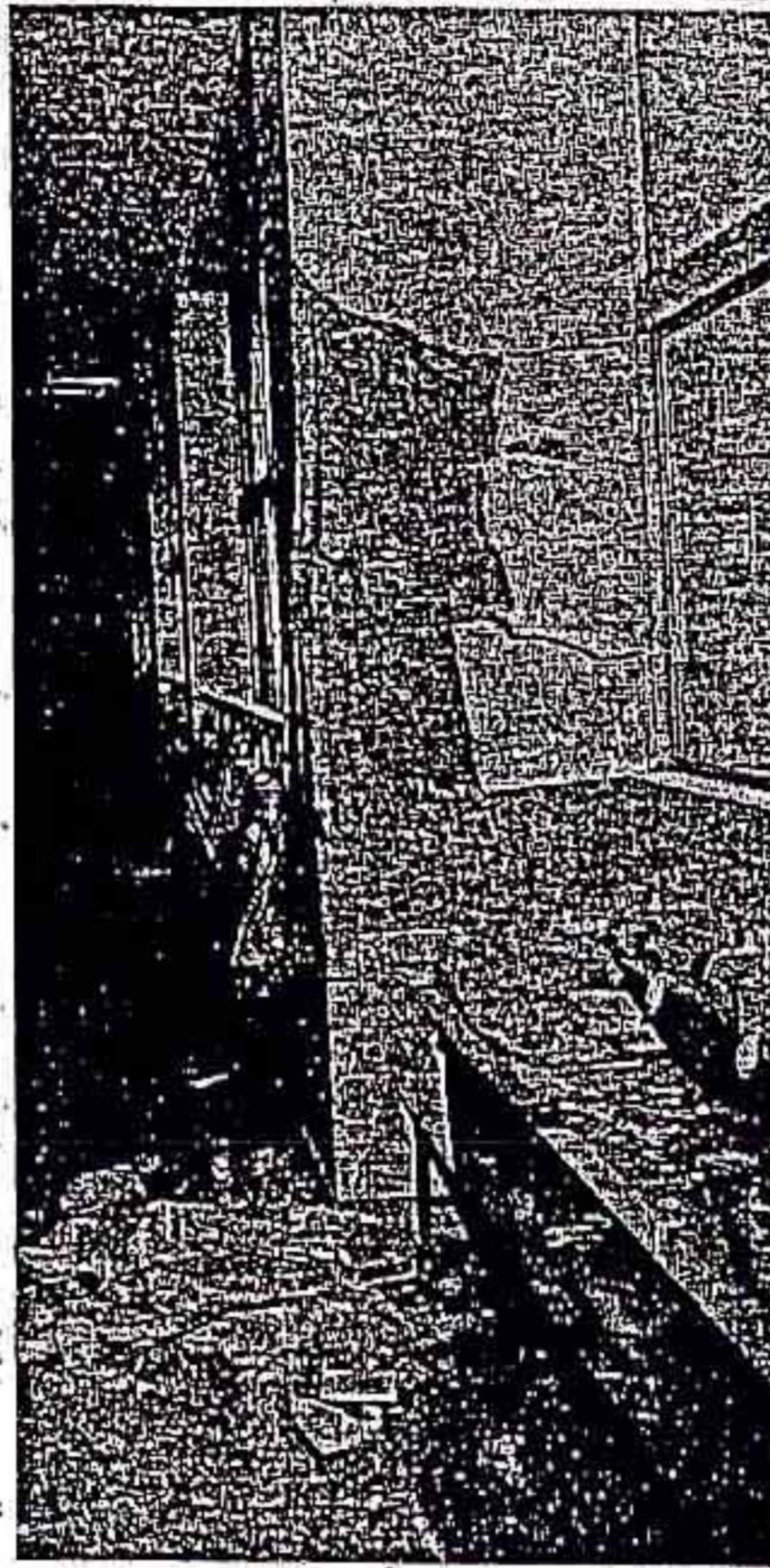
要注の「黄色」と判定された会見小では、二棟の校舎のうち古い校舎で窓ガラスが多く割れたほか、廊下の柱や外壁が崩れ、内壁の至る所に亀裂が入るなどの被害が出た。

同校の旧校舎は昭和四十二年築道の鉄筋コンクリート三階建て。五十四年に建設された裏手の新校舎には、ほとんど被害がなかったため、町教委は旧校舎の使用を原則禁止とし、八日は全職員が机やイスなどを新校舎に移す作業を行った。

同校は小高い丘陵地であり、地震直後は運動場や避難路のアスファルトにも亀裂が入ったという。児童の登校のめどは立っておらず、原校長は「何とか国の補助などを得て、校舎を再建してもらいたい」と話している。

鳥取県教委などによると、被害が確認された県立の施設は▽幼稚園三▽小学校六▽中学校二十▽高校十六▽盲・聾・養護三▽県立社会体育施設五▽市町村立社会体育施設五十二▽その他四一の百六十五カ所。私立でも幼稚園や専門学校など二十四施設で被害があった。

天井や壁のひび割れや落下、グラウンドの地割れや陥没、ガラス破損などの被害を受けている。



大きな亀裂が入り、壁面が崩れた会見小学校二階の柱

新日本海新聞
12.10.9

養護三▽県立社会体育施設五▽市町村立社会体育施設五十二▽その他四一の百六十五カ所。私立でも幼稚園や専門学校など二十四施設で被害があった。

天井や壁のひび割れや落下、グラウンドの地割れや陥没、ガラス破損などの被害を受けている。

会見小教室棟随所にひび

特別棟に教室を全面移転

会見町宮前の会見小学校八日は職員総出で移動準備(原光太郎校長、二百十人)に追われた。十日は休校する。普通教室や職員室がある校舎(鉄筋コンクリート三階建て、延べ床面積約二千平方メートル)の随所にひびが入った。このため、特別教室のある別棟の校舎に教室を全面的に移すことになった。

同校は、教室棟と特別棟の校舎が前後に並んでおり、今回の地震で被害を受けたのは、前校舎と呼ばれる築後三十五年の校舎。地震で柱のほとんどの亀裂が

入り、壁も随所で崩れ落ちた。

創作室や視聴覚室などの特別教室がある築後二十年の後校舎(鉄筋コンクリート三階建て、千五百平方メートル)は検査の結果、安全と判断。職員らが、普通教室として使おうと、模様替えに精を出している。

地震発生時は昼休み時間で、校庭で遊んでいた子どもたちもいたが、かなりが教室や体育館にいた。子どもたちは、机の下に隠れたり、体育館では壊れたガラスが飛び散る中、校庭へ逃げた。「二週間前に地震を想定した避難訓練をしていたこともあって、けが人がでなかったのが救い」と原校長。避難後、女の子たちの中にはショックでしばらく泣き続ける女の子たちもいたという。

県教委によると、今回の地震で校舎が使用できなくなったのは会見小だけ。



大小の亀裂が入った校舎内の柱—会見町宮前、会見小学校

山陰中央新報
12.10.9

104校で学校施設被害

会見小 再開、めど立たず

地震の被害は学校施設にも広がっている。県教委の八日までのまとめでは、幼稚園三園、小学校六十校、中学校二十二校、高校十六校、盲学校など三校の計百四校で、何らかの被害があった。校舎が危険な状態になったり、児童や生徒の通学路の確保に心配があったりする学校では、連休明けの十日を休校とする動きも広がっている。

あす休校拡大も

会見町立会見小学校では二つある校舎のうち一棟で、一階から三階まで柱のいたるところにひびが入った。県教委が調査した結果、立ち入り禁止とされる「危険」と判定され、同校は十日を休校とすることを決めた。職員が被害の少なかつた校舎に机やイスを運

び込むなどして授業再開を目指しているが、めどは立っていないという。境港市の外江小学校では、鉄筋コンクリート三階建ての北校舎三階の五、六年生が使っている三教室でコンクリートのほりに短いひびが数本入ったほか、中庭のコンクリートに亀裂が

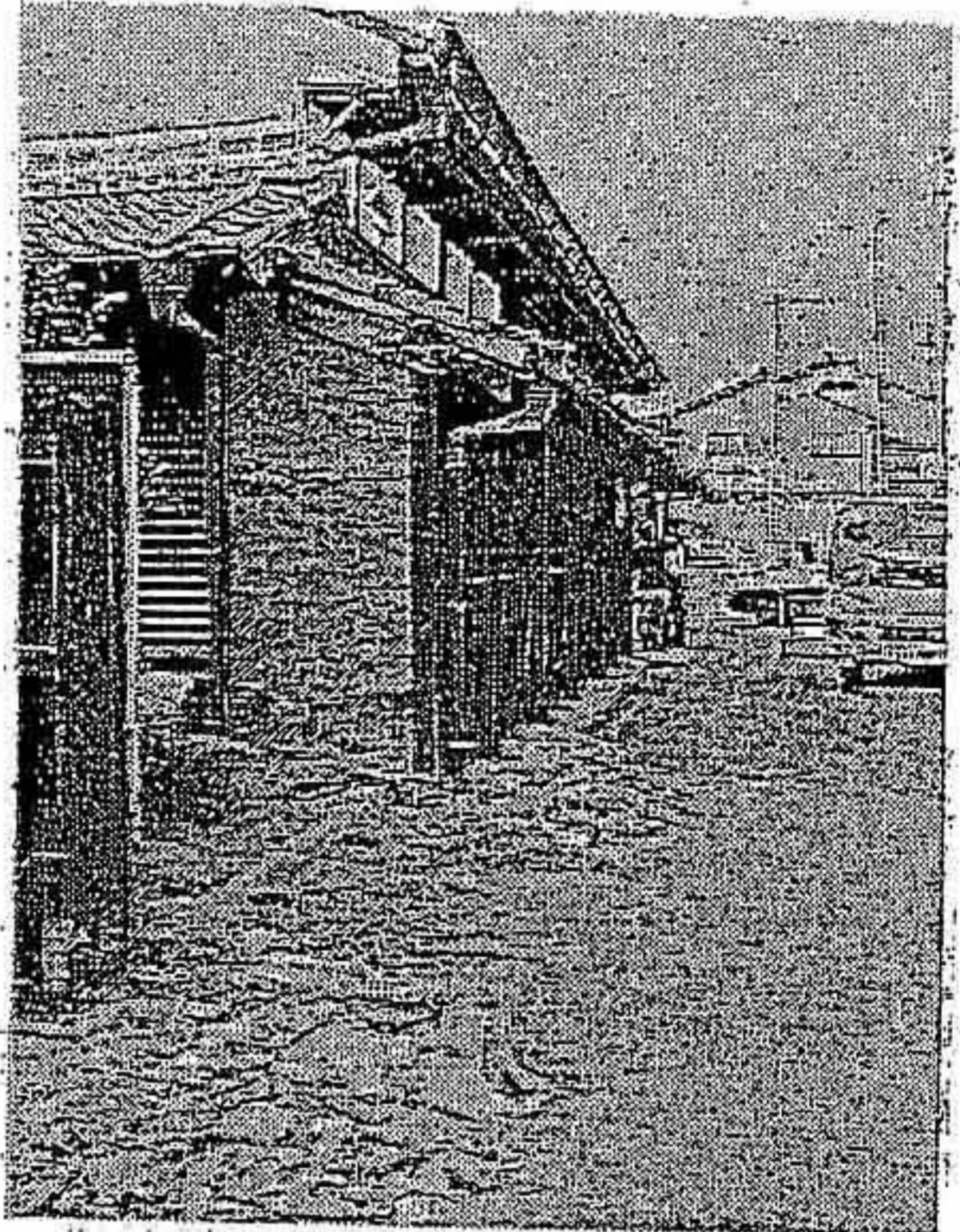
出来た。同校は十日を臨時休校にし、全児童の家庭訪問を予定している。このほか、日野、溝口両町は十日、すべての小学校と中学校を臨時休校にする。米子市と西伯、江府両町は九日に休校かどうかを判断する。会見町立南部中学校は水道水がにこっているため、当分の間午前中だけ授業をする。岸本町は給食配給施設が大きな被害を受けたことから、弁当を持参しての登校となる。県教委は、各県立学校について、九日にJR伯備線の復旧状況や道路状況などを検討して、十日以降の授業について決めるとしている。



震源付近の鳥取県西伯町で、法勝寺中学校グラウンドの崩落現場を調べる大阪管区気象台の職員ら調査班 8日午前9時40分

朝日新聞

12.10.9



土塀が崩れた国の重文「後藤家」

国・県の12文化財に被害

後藤家の損壊深刻

鳥取県西部地域は、歴史的遺産も多く、国指定の文化財も数多くある。八日現在の鳥取県文化財のリストによると、国指定の文化財は七件、県指定五件、市町村指定十一件の被害が確認された。幸い調査が進められているものの見込みは、中でも米子市内町の

板戸、多すまの壁の多くが壊れていることが分かった。そのほか国の重要文化財では、大山町の大山寺一木直阿弥陀如来(あまだんざい)像の光背の一部は折れたほか、同町の「門脇家住宅」でも蔵の壁の一部や灯籠などが崩落。国指定史跡の三明寺古墳(倉吉市)の石室でも壁の古の一部が崩壊した。鳥取県や市町村の文化財でも、家屋や庭園、史跡を中心に壁の一部が倒れたり、土塀や塀などが倒れる被害が相次いだ。ただ美術品や仏像の破壊など文化財の価値そのものが失われるような被害は今のところ報告されておらず、鳥取県文化課は「壊れた土塀も一部は、もともと復元されたもの。後藤家などの家屋も価値を損なわれない形で修復したい」と話している。

文化財
鳥取県西部の地域で16件の文化財が被害を受けた。このうち国の重要文化財に指定されている米子市内町の「後藤家」は、道路沿いの土塀が崩壊したのをはじめ母屋の壁に亀裂が入ったり、ふすまが破損、味噌壁に亀裂が入るなどした。
後藤家は江戸時代の廻船問屋で18世紀初頭から半ばにかけて建てられ、当時の代表的な商家として1974年、国指定された。

毎日新聞
12.10.8

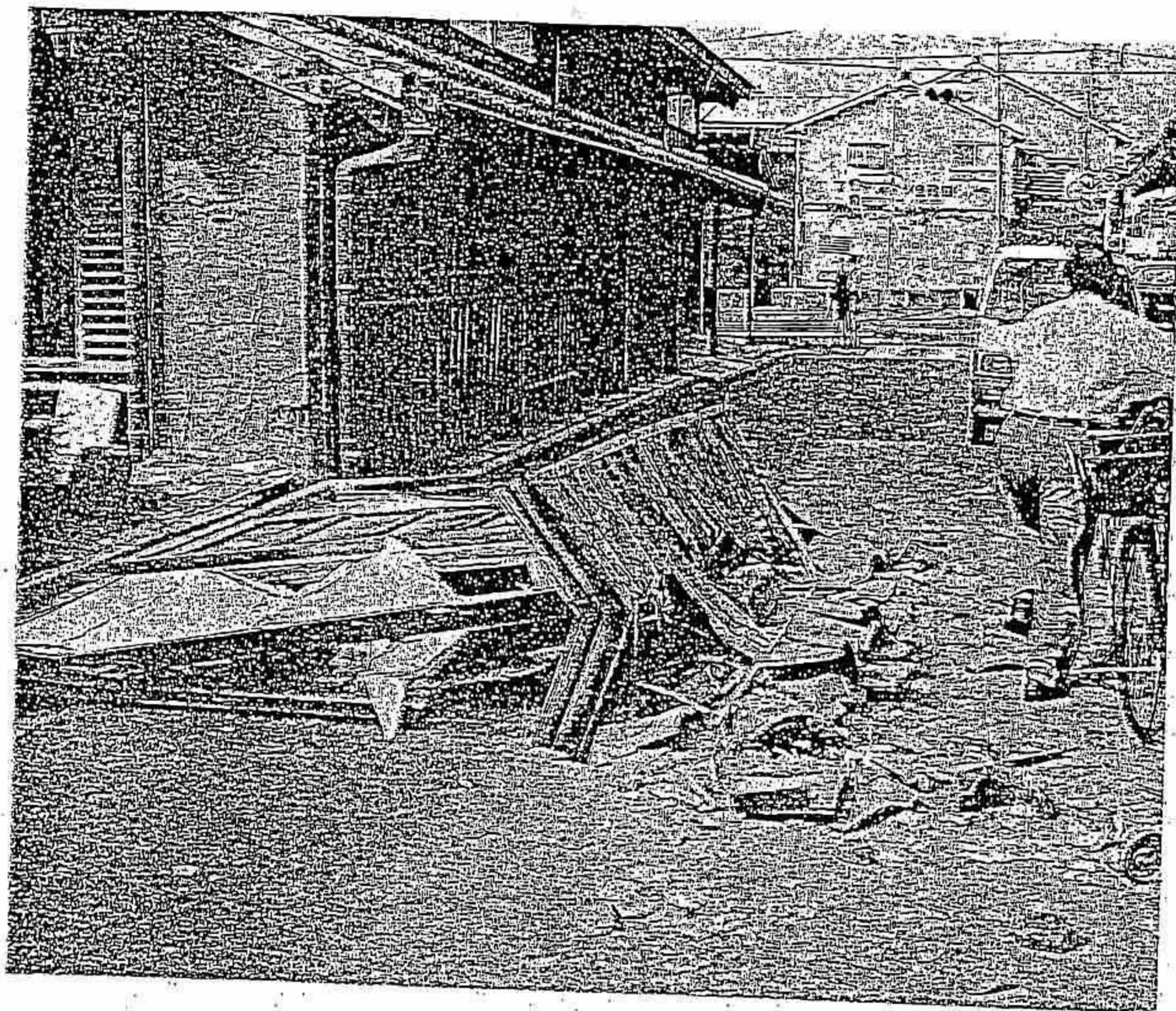
新日本海新聞
12.10.9

倒壊した国の重要文化財・後藤家の壁＝午後3時ごろ、米子市内町



鳥取県西部地震

山中
1979



道塞ぐ土塀

重要文化財・後藤家住宅の土塀が崩壊、道路をふさいだ瓦や壁土＝米子市内町、6日午後3時ごろ

山陰中央新報 12.10.7

県西部地震 再開の学校 欠席目立つ



教職員から立ち入り禁止場所の注意を聞く児童（境港市淡町の境小で）

カウンセラー派遣も

溝口町、仮庁舎で業務開始

県西部地震から五日目の十日、被災地の大半の小、中、高校などでは授業が再開され、地震の傷跡が残る校舎で、子供たちはお互いの無事を確かめあい、笑顔を浮かべた。だが、余震におびえる児童も見られ、以前の学校生活に戻るには、まだしばらく時間がかかりそうだ。また、倒壊の恐れがあった溝口町役場は近くの町公民館に仮設庁舎を設けて、窓口業務を始め、職員は復旧への気持ちを新たにしていた。

境港市の市立余子小（近藤孝昭校長）百九十五人の児童では各担任が地震後の状況に変化がないか児童一人ひとりに話を聞いた。近藤校長が「みんなが学校に登校できてよかった。余震が続いているので、お互い助け合っているかな」と話している。児童の調査では、この一校の在籍者三万六千九百九十二人のうち、「精神的に不安」「交通が不通で通学困難」などの理由で、百九十二人が欠席した。今後も一週間は調査を継続し、状況によってはスクールカウンセラーなどの被災地への派遣も検討している。

溝口町は職員が九日朝から夜を徹し、仮庁舎になる町公民館での窓口カウンセラー開設の作業を続け、十日午前八時半の業務開始に間に合った。

住民課の総合窓口を担当する石田次郎課長補佐は「間に合ってたよ。しんどい時期ですが、『頑張ろう』という励ましの声をかけてくれた人もいます」と張り切っていた。

読売新聞 12.10.11

鳥取西部地震

9人は不安感訴え

県教委 各種相談で心のケア

鳥取西部地震の被害が大きかった県西部で、学校を欠席した児童生徒は百二十一人で、このうち九人が精神的な不安感が理由であることが十一日、県教委の調べで分かった。

小・中・高校、養護学校一校した十一校を除く八十八校は、小学校十四校▽中学一校▽養護学校六校。九十九校のうち、この日休校で調査。学校別の欠席者 九人▽高校八十三人▽中・小 欠席理由は、交通機関の影響が七十四人で最も多く、次いで自宅修復の手伝いなど十三人、親類宅に避難が十二人。精神的な不安感に小学生が四人、中学生三人、高校と盲・聾・養護学校が各一人。「食欲がない」「外へ出るのが怖い」などと訴えている。

心の健康相談窓口を設置。臨床心理士が学校や地域を回る訪問相談も行い、子供たちの心のケアに努めている。県教委によると、休校している県立根高と江府町内の小・中学校五校は十二日、県立日野高と日野産高は十三日、日野町内の小・中学校四校は十六日からそれぞれ授業を再開する。

産経新聞 12.10.12